

2017 年度事業計画

公益財団法人
日本ラグビーフットボール協会

(2017 年度事業計画策定にあたって)

2015 年 9 月～10 月のラグビーワールドカップ 2015 イングランド大会、2016 年 8 月のリオデジャネイロオリンピック大会を経て、日本におけるラグビー競技及びそれを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。ラグビー競技の強化・普及・発展の観点からも、この大きなうねりをいかに捉えるかがラグビーを主管する協会としての大きな課題となります。

2017 年度はラグビーワールドカップ 2019 日本大会まで 2 年を切り、予選プール・試合日程が確定する等、節目の年となります。後述のとおり、国際試合等を通じ、引き続き強化を図っていくとともに、ラグビー憲章『Integrity (品位)、Passion (情熱)、Solidarity (結束)、Discipline (規律)、Respect (尊重)』に沿った競技としての普及活動を確実に実施していきます。

また、協会は、『日本ラグビー戦略計画 2016-2020』を策定しましたが、『BIG TRY』のキーワードの下、この計画を着実に実行に移す初年度として、多部門にわたり必要な努力をしていきます。

協会としては、下記の方向性のもと、各分野で具体的施策を検討・実施していきます。

1. 強化

下記の試合を通じ強化を図っていく。

- ① 日本代表戦：6 月対ルーマニア、対アイルランド(2 試合)、11 月対オーストラリア、欧州遠征(対フランス等)など。
- ② U20：今年度は、ワールドラグビーU20 トロフィーに降格しているが、同チャンピオンシップへの復帰を目指す。
- ③ 7 人制男女：男子は SWS(セブンズワールドシリーズ)での残留を目指す。女子は、WSWS(女子セブンズワールドシリーズ)への昇格を目指す。
- ④ 15 人制女子：8 月の Women's Rugby World Cup2017 大会にてベスト 8 を目標とする。
- ⑤ サンウルブズとの連携を深め、NDS(ナショナル・デベロップメント・スコッド)を新たに導入し、日本代表強化手段として活用する。
- ⑥ U18 チームのヨーロッパチャンピオンシップへの参加等を通じ、ユース強化体制の整備と改善を図っていく。

2017 年度事業計画

2. 事業全般

ラグビーワールドカップ 2019 日本大会を見据え、(公財)ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会・開催都市等と連携し、集客に関しては、あらゆる層への訴求を目指し、プロモーション施策についても新たな視点での施策の実施を目指す。同時に将来の事業体制を確立するために、トップリーグ等の協会実施事業についても、協会内でのプロジェクトチームにて、そのあり方を含め、検討していく。また、TOKYO2020 大会を見据え、オリンピック種目である 7 人制の世界大会である WSWS (女子セブンズワールドシリーズ) の日本大会を開催する。

3. 普及

継続して安全なラグビー競技ということを意識し、タグラグビーの小・中学校体育実技への導入を梃子としてより幅広い層への普及を図り、登録競技者数の増加を図る。重症事故撲滅対策については、引き続き必要な施策・指導を強化、継続して行う。また、Integrity を始め、ラグビー憲章に記載されたラグビーのコアヴァリューの十分な浸透に努めていく。

4. 財政・組織の強化

2019 年・2020 年以降を見据え、安定的な財政基盤を確立するために、確実な予実算管理を行うとともに、安定的で強固な組織体制の構築を目指し、外部コンサルタントによる調査・分析を実施し、組織の見直しを始めとした必要な対応を検討・実施していく。

5. 戦略計画の実行

『日本ラグビー戦略計画 2016-2020』については、適宜進捗状況を確認し、確実な実行を図る。進捗状況の把握を行える体制を構築することを検討する。

6. ラグビーワールドカップ 2019 日本大会

5 月には予選プール組分けが行われ、秋以降には、開催まで 2 年を切り、試合日程も確定する予定であることから、ラグビーワールドカップ 2019 組織委員会・開催都市等との一層の連携を図り、大会成功を目指していく。

以 上